



「ハブ～学生と地域住民をつなぐ場所づくり～」

地域交流ラボ
昭和女子大学



00

目次

01

活動報告

02

活動を通して見えた課題

03

HUBSANについて

04

今後の展望



Table of
Contents

私たちがまちの活動に参加して
見えたもの

01



池尻五町会連合納涼盆踊り大会



7.21

8.8

池尻地区車座集会



8.19

8.25

活動の記録

2023.7~2024.1

昭和女子大学キャンパス周辺 街歩き太子堂地区



8.31



世田谷区役所清掃・リサイクル部事業課
ヒアリング



日帰りバスハイク/夏季レクリエーション

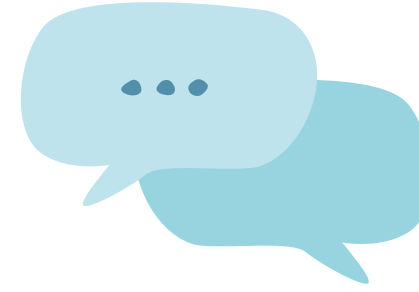


太子堂地区車座集会

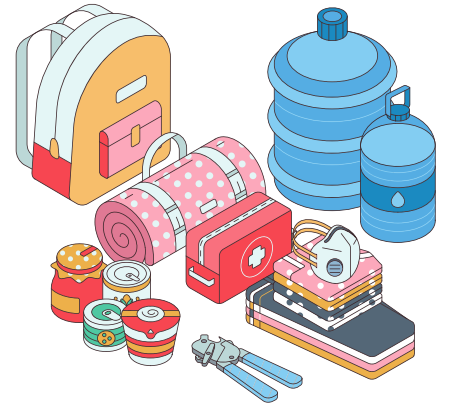


活動の記録

2023.7~2024.1



グループ内でこれまでの活動を振り返り、整理していた時期



9.3

池尻小・避難所運営訓

9.10

10~12月

1.13

太子堂地区防災塾



地域交流ラボの 活動を振り返ってみて



学生と地域住民の交流は今、まだ限定的であるため年齢や性別、など多様な人々が集める三軒茶屋で協力することで相乗効果を生み出せる環境を生み出したいと活動を通して考えた。

(3年・F)

三軒茶屋に所在する昭和女子大学という資源を有効活用出来れば、地域の活性化と学生の経験の場の二つが生まれる可能性があると感じた。

(4年・K)

地域が抱える諸問題を解決に導くためには若者の力が必要不可欠だと改めて感じた。大学生だからこそできることとして、若者と地域を繋ぐことが大切だと感じた。

(2年・Y)

昭和女子大学が地域に開けたら学生と地域、また地域の中の繋がりをより強めることが出来ると感じた。そのためにも継続的に活動できる存在が必要だと考えた。

(3年・N)

地域のことを知るためには、実際に見たり聞いたりすることが大切だと学べた。

(2年・H)

02

活動を通して見えた課題

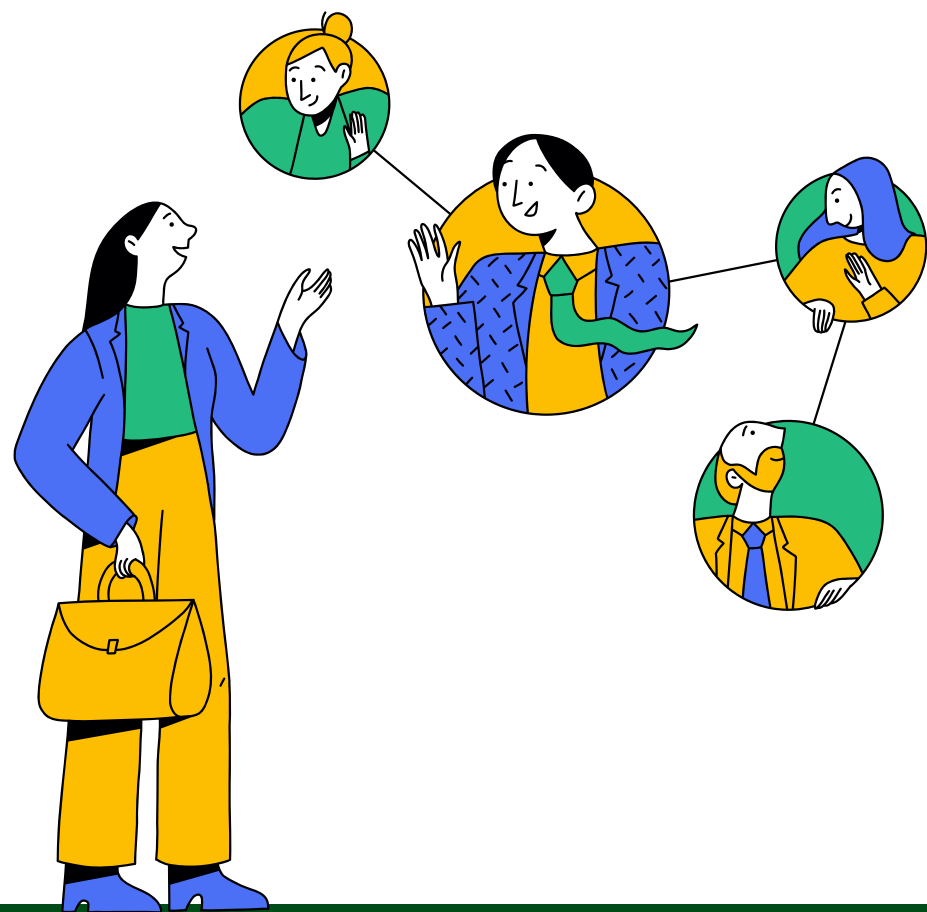
昭和女子大生と
地域住民の
関係性の希薄さ



02

課題と私たちが解決 したいこと

昭和女子大学の学生と地域住民は双方が継続的にコ
ンタクトが取れる環境整備。



01

「まちを運営するメンバー
の高齢化」

02

「まちの行事への参加率の低さ」

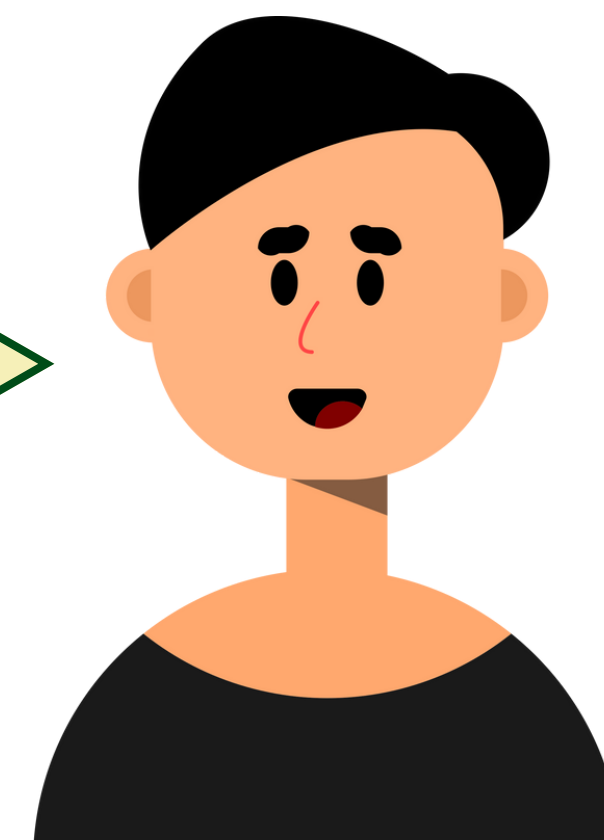
03

「イベントに参加する人の
固定化」

コロナになり、数年間の間これまで行われてきた行事を行うことが出来ず、今年の盆踊りでは踊りを教えることのできる踊り手が減少した。



学生に地域のイベントへ積極的に参加してもらえると嬉しい。けど、どこに頼んでいいのかわからない。また、学生にどこまで頼んでいいのかわからないのがホンネ。



03

街の魅力を
見つけ出して
未来につなげる



学生と地域の方が持つ力を引き出し、 協力するための架け橋へ

学生が求めるもの

- ○○分野×地域交流
- 人生の先輩との人脈づくり
- 安心できる居場所

地域の方が必要としているもの

- 若い人たちの力/人手
- 活気やアイデア？

まだまだ、知識も経験も浅い
皆さんからお話を聞き、暮らしを知っていく必要がある

WE ARE HERE NOW!

- 協力者/賛同者を集める
→ビジョンの共有/ヒアリング
- SNSや地域紙にて情報発信
(イベントやインタビュー記事にまとめる)

まちを知る

私たち活動を知ってもらう

プラットフォームを創る

- 地域のイベント協力・参加
- 三軒茶屋まち歩き/インタビュー
→魅力を発見し、記録
- 知識を生かす
→学生と地域住民、双方のニーズを分析

- WIN-WINとなる交流する活動の創出と信頼、協力しあえる基盤の整備。
- イベントの企画

交流とワクワクを
実現できるまちに

